



**青少年国際交流事業事後活動推進大会
日本青年国際交流機構第39回全国大会
第30回青少年国際交流全国フォーラム**

令和5年9月30日（土）・10月1日（日）

報告書



目次（ページ）

大会概要	3
内閣府青年国際交流担当室長 挨拶	4
日本青年国際交流機構（IYEO）会長 挨拶	5
一般財団法人青少年国際交流推進センター理事長 挨拶	6
実行委員長 挨拶	7
とっとり青友会会長 挨拶	8
日程（全体スケジュール）	9
第1部 開会式・閉会式次第	10
第1部 パネルディスカッション	11
第1部 分科会	14
第2部 式次第	28
第2部 事業参加報告会	29
第2部 地域理解研修オプションツアー	30
参加者アンケート結果	33
第1部・第2部 会場一覧表	42
会場および会場周辺図	43

大会概要

1. 開催趣旨

推進大会では、内閣府、地方公共団体等が行う青少年国際交流事業の既参加青少年が全国から集まり、各地域における事後活動の推進状況を報告する。また、既参加青少年間の全国的なネットワークの構築など事後活動を更に充実させるための方策について積極的に意見交換を行う。これらのことにより、既参加青少年相互の交流と研さんを図り、今後の国際交流活動及び地域社会における諸活動の推進に貢献するため、推進大会を鳥取県においてハイブリッド開催する。

2. 大会テーマ 「Restart & Version up～自分のなかに、地域のなかに、世界のなかに新しい発見を～」

日本で一番人口の少ない鳥取県。しかしながら、暮らしやすさ日本一(経済産業省 2015)の米子市、「住みたい田舎」日本一(宝島社 2017)の鳥取市、琴浦町(同 2023)、外国人が訪れるべき日本の観光地第一位(ガイジンポット 2019)、地域版SDGs調査第一位(ブランド研究所 2021)など、地域活性化に関する主要な項目の評価の高さは特筆に値します。地域の特色をリメイクし、こだわりを持った活動展開と情報発信が、小さなエリアのシンプルな取り組みであっても、国を超えた関心や共感につながることを示唆しています。少子高齢化の象徴的な地域・時代で活動する私たちにとって、一人ひとりが自分の考えるリーダーシップを発揮していくことは、やがてその集積が個人の、また地域の存在性を高めることになります。本大会はコロナ禍を経て、4年ぶりに対面形式を復活させての再スタートとなりました。事後活動の意義を再確認するとともに、楽しさやすばらしさをより多くの青年に、途切れることなく承継するにふさわしい大会とします。本大会を通じて、参加者が持つ経験や知見を、地域での取り組みや特色ある文化・産業等に照らし合わせ、議論や意見交換してブラッシュアップすることで自身の魅力や能力を引き出し、昨日とは違う新しい自分の発見につなげ、持続可能な交流や国際理解を通じた青少年育成活動、ひいては各地域の発展に寄与することを目的とします。

3. 日時・場所

日時： 9月30日(土) 第1部 13:00-18:00 第2部 19:00-21:00

10月1日(日) 地域理解研修 8:30-12:00

会場： 国際ファミリープラザ(鳥取県米子市加茂町2丁目180番地)

4. 主催・共催・運営事務局・協力・後援

第1部 主催：内閣府

共催：日本青年国際交流機構、とっとり青友会

運営事務局：一般財団法人青少年国際交流推進センター、第39回全国大会実行委員会

後援：鳥取県、米子市

第2部 主催：日本青年国際交流機構、一般財団法人青少年国際交流推進センター

共催：とっとり青友会

運営事務局：第39回全国大会実行委員会

後援：鳥取県、米子市

協力：内閣府

内閣府青年国際交流担当室長 挨拶

青少年国際交流事業事後活動推進大会
鳥取大会報告書に寄せて

内閣府青年国際交流担当室長 由布 和嘉子



本年の青少年国際交流事業事後活動推進大会は、4年ぶりに対面形式を復活させたハイブリッド形式での開催となりましたが、大変多くの方に御参加いただき、鳥取の地で成功のうちに終えられたことを、主催者の一人として心から嬉しく思います。

青少年国際交流事業事後活動推進大会は、日本全国から内閣府青年国際交流事業の幅広い世代の既参加青年や国際交流に興味のある方々が一堂に会し、事後活動の充実に向けて意見交換がなされる年に一度の機会となっております。私にとっては初めての参加となりましたが、各界や地域で活躍されている多くの既参加青年の方々と実際にお会いし、この大会の重要性を強く実感したところでございます。

第1部の開会式で、平井鳥取県知事から御挨拶を頂戴し、本大会の開催を歓迎いただいたのを皮切りに、今年度のテーマ「Restart & Version up ～自分のなかに、地域のなかに、世界のなかに新しい発見を～」に基づく各プログラムが開始されました。

内閣府青年国際交流事業の既参加青年を含む、地域やグローバルのステージでリーダーシップを発揮している6名をお招きしたパネルディスカッションでは、「自らの生き方を創る～国際・地域課題解決のヒント～」をテーマにお話を伺いました。地域活性化や事業承継など多様な観点から、それぞれの生き方についてお話をいただき、参加者の皆様の今後の活動の幅をさらに広げていただくヒントとなったものと思っております。

続く分科会では、パネリストの方々や鳥取県を拠点に国内外で活躍されている方々を講師・ファシリテーターとして、講演やディスカッションなどの様々なプログラムが実施されました。私は「もっと井田広之氏の話を知りたい！」の分科会に参加しました。当該分科会もそうでしたが、いずれの分科会も各参加者が「Restart & Version up ～自分のなかに、地域のなかに、世界のなかに新しい発見を～」を意識しながら学びを行うことができる、鳥取県ならではのプログラムであったと聞いております。

第2部のプログラムでは、昨年度事業参加者による事業参加報告会が行われました。「世界青年の船」事業に参加した青年より、事業に参加したきっかけ、事業を通じて自身が成長できた点や得られた気付き・成果についてお話しいただき、私も本事業の意義に改めて思いを致しました。

参加者の皆様には、今後も国際社会や地域社会に貢献する活発な事後活動を展開し、交流の輪を大きく広げていただけるよう期待しております。

最後に、柿本実行委員長、河崎とっとり青友会会長を始めとする実行委員会の皆様、鳥取県を始めとする中国ブロック各県のIYEOの方々、鳥取県及び米子市の皆様におかれましては、4年ぶりの対面形式を含めた形での開催ということで様々なご苦勞もあったことかと存じますが、このような素晴らしいプログラムを実現いただき、厚く御礼申し上げます。

日本青年国際交流機構（IYEO）会長 挨拶

青少年国際交流事業事後活動推進大会

日本青年国際交流機構第 39 回全国大会

第 30 回青少年国際交流全国フォーラム 報告書に寄せて



日本青年国際交流機構（IYEO）会長 長末 辰也

念願の対面を含むハイブリッド開催とすることができたので現地に赴いての参加となり、改めて対面交流の素晴らしさを感じるとともに、とても熱気を感じる素晴らしい大会でした。

本大会では「Restart & Version up～自分のなかに、地域のなかに、世界のなかに新しい発見を～」をテーマに据え、地域で活躍している豪華なパネリストの方々のお話を伺い、様々な分科会プログラムを通し実際に見て体験することによって、自分は何がしたいのか、できるのかを自分自身と向き合い、自分自身にとっての1歩を踏み出すことを目的として企画されました。参加者の皆様からは「パネリストの方々が多様な思いを持って行動されている」、「きっかけは様々だが結局は人と人の繋がりが重要なんだ」などと多くの気づきが得られたように見受けられました。私自身も「やりたい思いを口に続けると巡りに巡って運命的な出会いや手を差し伸べてくださる方に出会うものなのだ」と改めて認識するきっかけとなりました。現状に留まることなく、自分のやりたいことを想い続け行動に移すこと、Restart & Version up を大切にしたいと思います。

内閣府青年国際交流事業も日本・中国青年親善交流事業を除きすべてが対面交流となりました。オンライン事業と比べると、やはり参加青年の熱気や意欲が大幅に上がり、友情やネットワークの構築に大変ポジティブに影響していると感じます。ウィズコロナ時代に世界は突入している中、全都道府県においても対面活動を積極的に活性化し、国際交流を、地域活性化を止めないように尽力したいと思います。

今回の鳥取県での全国大会では、実行委員長をはじめ若いメンバーが企画・運営の中心となって動き、ベテランがしっかりサポートするという形を取れたこと、そして企画そのものが成功したことで、実行委員メンバーの成功体験となったことは非常に嬉しいことだと思います。これを機にさらなるワクワクを見つけ、周りを上手く巻き込みながらチャレンジしてもらえればと思います。

最後に、今大会を開催するにあたり、内閣府の皆様をはじめ、鳥取県庁関係者、大会関係者、及び一般財団法人青少年国際交流推進センターの皆様には多大な御協力をいただきましたことに、とっとり青友会をはじめ、日本全国の日本青年国際交流機構会員を代表し御礼を申し上げます。また、実行委員会メンバーの皆さんは本当にお疲れ様でした。

一般財団法人青少年国際交流推進センター理事長 挨拶

日本青年国際交流機構第 39 回全国大会及び
第 30 回青少年国際交流全国フォーラム報告書に寄せて



一般財団法人青少年国際交流推進センター理事長 駒形 健一

鳥取での初の日本青年国際交流機構（IYEO）全国大会、大成功おめでとうございます。今回の全国大会は 4 年ぶりの対面交流となりましたが、やはり IYEO で育んできた人生の仲間は直接会って気持ちを通じ合っこそ、その魅力と力が発揮されるものだということを改めて実感しました。実施にあたって準備段階から汗をかかれた皆様に心から感謝申し上げます。

平井知事の名スピーチで幕を開けた第 1 部は、鳥取を代表する個性豊かで魅力あふれる 6 人によるパネルディスカッションが異彩を放っていました。その後の分科会はパネリストの方々も参加され、ディスカッションの深堀りをする機会になったと思います。ほとんどの分科会は同じ建物の中で開催されたので急な雨降りでも影響はなかったのですが、私が参加した米子城趾の見学は足元が悪いため中止となり、代わりに米子市内の町屋や昔ながらの街並みを散策することになりました。急な変更にもかかわらず、町案内の方に快く対応していただき、参加した皆様の心に米子の歴史を感じさせる町屋の姿が焼き付いたと思います。

第 2 部では伊木米子市長の挨拶の後、昨年度の「世界青年の船」事業に参加したばかりの岡山県の既参加青年がパワーポイントを使って臨場感あふれる熱い気持ちの入った報告をしてくれました。既に夕食会の準備がされていた中でやりにくかったかもしれませんが、自らの体験を大勢の方に語ることで、これからの自らの歩みに自信を深めることができたのではないかと思います。

翌日の地域理解研修では、ユニークな妖怪列車で境港まで行き、思わず入りたくなるような魅力的な店が並ぶ「みずきしげるロード」を皆で散策し、鳥取の地域活性化の成功例を実体験することができました。

今回の大会は、従来の基調講演ではなくパネルディスカッションがメインとなっていました。大会のスタイルは形式にとられず各地主催者側の創意工夫で様々なものが考えられると思います。今回、その地域で光っている未来志向の人材を活かしていこうという気持ちを感じられ、今後の全国大会の運営に参考となるプログラムでした。

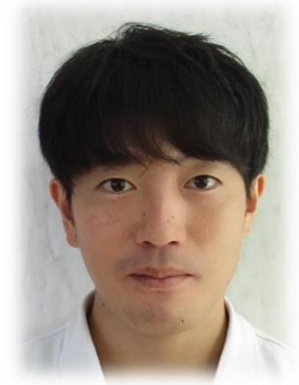
また、オンラインでも参加ができるハイブリッド方式でしたが、両面作戦で裏方で苦労された皆さんの労をねぎらいたいと思います。

コロナ禍が明け、各交流事業もほぼ全面的に対面交流となり、地方プログラムなどに関わる IYEO 関係者のモチベーションも上がってくると思います。今回の大会を契機に、IYEO がフレッシュな既参加青年を巻き込み新しい道を開拓しながら前に進んでいくのを（一財）青少年国際交流推進センターとして応援していきたいと思います。

来年の全国大会は山梨県です。どんなにワクワクさせてくれるプログラムになるのか今から楽しみです。関東のみならず全国各地から多くの方が参加する盛大な大会になることを期待しています。

実行委員長 挨拶

青少年国際交流事業事後活動推進大会
日本青年国際交流機構第 39 回全国大会
第 30 回青少年国際交流全国フォーラム報告書に寄せて



日本青年国際交流機構第 39 回全国大会 実行委員長 柿本 和也

このたび鳥取県米子市で開催されました日本青年国際交流機構第 39 回全国大会 in 鳥取は、大盛況の後無事閉幕することができました。本大会は、内閣府、日本青年国際交流機構、一般財団法人青少年国際交流推進センター、鳥取県、そして御登壇者の皆様、各都道府県 IYEO 会員の皆様の多大なる御協力により、無事に終了することができました。実行委員一同、深く感謝申し上げます。

本大会はコロナ禍からの脱却後、初の対面での開催であると共に、これまでのコロナ禍で培ったオンラインでの交流も交えたハイブリッド開催という形式で開催となりました。対面及びオンラインにて多くの皆様に御参加いただきました。

第 1 部ではモデレーター石原達也氏と、経験豊富で個性豊かなパネリスト 5 名によるパネルディスカッションを開催しました。石原氏によるテンポの良い進行とユーモアを交えたトーク、そして各パネリストの多彩な経験から繰り出される深みのある言葉に会場は魅了され、あっという間の時間であったように感じました。

また分科会では各パネリストの経験や思考をさらに深掘りできる分科会に加え、米子観光まちづくり公社の皆様による米子街歩きや、フランスの家庭菓子「ガレット・デ・ロワ」コンテスト「エスポワール部門」優勝の岸本典子氏による分科会、「YONAGOOD～外国人が発信！米子の GOOD～」のチームリーダーである佐藤亜子ジュリエット氏による米子での国際交流についての分科会、さらにはオンライン参加者に向けた分科会を開催し、各分科会において非常に活発なディスカッションが繰り広げられていました。

第 2 部におきましても梶本夏末氏による 2022 年度「世界青年の船」事業参加報告やオプションルツアーによる地域理解研修を開催し、大いに盛り上がりました。

今回の大会を通じて、コロナ禍前のような活発な交流はもちろんのこと、アフターコロナと呼ばれるこれからの世の中において参加された皆様一人一人がどうあるべきなのかを深く考えることができる、大会のテーマ通り「Restart & Version up」となるような 2 日間であったと感じています。

最後に今回の鳥取での大会が皆様のこれからの社会活動のキッカケになれば幸いです。お互いを知り理解し合うこと、互いに議論し合い深め合うこと、物事に共感し感情を分かち合うこと、この様に人と人が交わることでしか生まれない「交流」をこれからも様々な形で絶やすことなく続けていくことが、私たちの使命であると感じています。これからも、まだ見えない世界を、私たちが作りだしていきましょう。

とっとり青友会会長 挨拶

青少年国際交流事業事後活動推進大会
日本青年国際交流機構第 39 回全国大会
第 30 回青少年国際交流全国フォーラム報告書に寄せて



とっとり青友会会長 河崎 忠義

今回、日本青年国際交流機構第 39 回全国大会は、4 年ぶりに対面をベースとしたハイブリッド開催となりました。日本全国各地や海外からを含め 140 名を超える多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

本大会は、「Restart & Version up～自分のなかに、地域のなかに、世界のなかに、新しい発見を～」をテーマに掲げ、IYEO が培ってきた青年国際交流事業事後活動の有意性や、組織・団体の活性化ノウハウなどをリアルに具現化するとともに、コミュニケーションの双方向化、多角化を重視することが対面形式の再出発を実感できるものと考え、一方で運営を補佐するアプリケーションや SNS、動画等の活用を図り、効果的かつ効果的な手法の導入にも力を入れた、文字通りバージョンアップした大会となりました。

大会の屋台骨となるパネルディスカッションや分科会を計画するにあたり意識したことは、地域や世界を牽引するのは「青年」であり、いかに情勢が流転しようと、不透明感で不安が先行しようと、社会的・世代的に最も創造的なポテンシャルとエネルギーを有する参加者へ、そのヒントを発信することでした。

限られた時間のなかで最大限の有効情報を収集してもらうため、パネルディスカッションと分科会を連続させ、スピーカーの本質の深掘りと、自分発見につながるきっかけづくりになるよう、準備を重ねてきました。

お陰さまで今回は、私たちの計画通りに運営できました。ご参加の皆さんから温かい言葉や笑顔をたくさんいただきましたことは、実行委員一同大変喜ばしく、感激に浸っているところです。

開催にあたりまして、内閣府、鳥取県、米子市、一般財団法人青少年国際交流推進センターをはじめ、協賛いただきました、寿製菓株式会社、永伸商事株式会社、素晴らしいパネリスト・分科会講師の方々、地元関係団体ほか多くの皆さまにご尽力いただきました。そして、なにより鳥取県へお越しいただき、大会を盛り上げていただいた参加者のご協力により、最高の大会を運営することができました。

本大会においては、日本青年国際交流機構、そしてとっとり青友会のパワーを感じ、事後活動展開の自信に繋がる機会となりました。これからも更なるレベルアップを進め、自分自身に、地域に、世界に、新しい爽やかな風を吹かせていきたいと思えます。

日程（全体スケジュール）

9月30日（土）

<第1部>

12:00～13:00	受付
13:00～13:45	第1部 開会式・記念撮影
13:45～15:30	パネルディスカッション
15:30～15:45	休憩
15:45～17:30	分科会
17:40～18:00	第1部 閉会式



<第2部>

18:45～19:00	第2部 受付
19:00～19:10	第2部 開会式
19:10～19:30	事業参加報告会
19:30～21:00	懇親意見交換会

10月1日（日）

	地域理解研修オプションツアー
8:30～9:15	集合、出発（オプションツアーごと）
出発後～12:30	散策、解散（オプションツアーごと）

第1部 開会式 次第

1. 開会の言葉
実行委員長 柿本 和也
2. 来賓挨拶
鳥取県知事 平井 伸治
3. 主催挨拶
内閣府青年国際交流担当室長 由布 和嘉子
4. 共催挨拶
日本青年国際交流機構会長 長末 辰也
5. 祝電披露
参議院議員 舞立 昇治
6. 閉会



第1部 閉会式 次第

1. 主催挨拶
内閣府青年国際交流担当室長 由布 和嘉子
2. 次年度全国大会開催県へ IYEO 旗 引継ぎ式
実行委員長 柿本 和也
山梨県青年国際交流機構理事 村松 聡
3. 閉会



第1部 パネルディスカッション

■ 講師紹介

◇モデレーター：石原 達也 氏（特定非営利活動法人岡山 NPO センター 代表理事）

岡山県生まれ。高校時代「緑の協力隊」への参加がきっかけで NGO 活動を知り、大学時代に青年国際交流事業地方プログラム協力などの経験により、学生だけの NPO 法人を設立。ボランティアや市民活動の支援者を志し、出身地岡山を拠点に多方面にわたる社会課題解決の仕組みづくり、組織設立と経営に従事。

◇パネリスト：中尾 和則 氏（鳥取地球人クラブ代表）

2010 年度「国際青年育成交流事業」リトアニア派遣団長。世界 80 か国を超える冒険の旅を繰り返す。シルクロード 15,000km 横断、アフガニスタン・パレスチナ難民キャンプ、津波被害後のインドネシアのバンダアチェなどで支援活動に尽力。（公社）鳥取県人権文化センター専任研究員。鳥取ベシヤール会理事、鳥取県ユニセフ協会理事、認定 NPO 法人ハーモニカレッジ理事など。鳥取市在住。

◇パネリスト：前田 浩寿 氏（医療法人・社会福祉法人「真誠会」理事長）

2015 年度「地域課題対応人材育成事業『地域コアリーダープログラム』」でドイツに派遣。経験を活かし、広い視野と柔軟で高いスキルを持った福祉人材の育成に力を入れる。

◇パネリスト：井田 広之 氏（鳥取県商工労働部産業未来創造課 課長補佐）

2022 年度「世界青年の船」事業地方プログラムで、受入テーマである「成長産業の創出」「科学技術イノベーション」に沿い、自らが発案し鳥取県が進める「鳥取砂丘月面化プロジェクト」の講義を実施。参加青年との交流をその後も継続中。Forbes JAPAN「スーパー公務員」。鳥取県の星空と宇宙をテーマにした地域活性化構想を提唱し、地域内外に共感者を増やししながら県公式プロジェクト「星取県」を立ち上げ、展開中。これまでに全国知事会「先進政策大賞」グッドデザイン賞、「読売広告大賞」優秀賞、「日本プロモーション企画コンテスト」地域キャンペーン特別賞受賞。

◇パネリスト：五塔 熱子 氏（とっとりサウナ CEA(最高経営熱波師)）

横浜市出身。日本一の熱波師。鳥取県琴浦町に設立した本格的フィンランドサウナ「Nature Sauna」所属。2021 年に関東から鳥取に移住したことがサウナ界の大きな話題に。2020 年「サウナー・オブザイヤー」受賞。アウフギースを通じ海外青年と積極的に交流を図っている。2022 年オランダで開催されたアウフギース世界大会にアジア勢として初出場し、個人部門フリースタイル 3 位の快挙。

◇パネリスト：遠藤 みさと 氏（株式会社 上代 代表取締役）

米子市出身。2021 年廃業寸前だった会社「どぶろく上代」を事業承継し、24 歳で社長に就任。就任後は会社の業績も急速に回復。新商品の開発やカフェのオープンなど新しい取り組みに挑戦。地域を巻き込んで活性化を進める若きリーダー。

■ 参加人数：123 名（対面）、26 名（オンライン）＊関係者含む

■ テーマ：「自らの生き方を創る～国際・地域課題解決のヒント～」

■ 概要：

不透明でカオス感に満ちた現在の社会情勢のなかで、自分が何をしたいのか、自分に何ができるのか、自問自答しながら地域で活動する青年や組織に向けて、地域やグローバルステージでリーダーシップを発揮しているパネリストから、生き方の見つけ方・作り方、向き合っている地域課題、解決に向けたヒント等を、軽快なトークでディスカッションする。

■ 内容 :

① 生き方を創る

遠藤 : 幼いころからアニメが好きで、自分は「海賊王」になりたいと思いつけていた。社会人になっても地元鳥取が好きという気持ちは変わらず、たまたま知人のいたどぶろく製造会社が廃業寸前と聞き、自分が承継したいという思いに駆られ、飛び込んだ。学生時代に起業体験があり、会社の創業時の発起人の一人と親しかったため、若者がボスになることに会社や地域からの反発はあまりなく、受け入れてもらえたのは、廃業させたくない熱意が通じたものと考えている。

前田 : 学生時代、海外に出る思いが強かったが、後に妻となる女性との出会いで全く思いもよらない福祉の世界に携わることになった。現法人で義父・実父の看取りを経験し、関わった職員への感謝の念とともに、この現場で誠意をつくして「置かれた場所で咲く」覚悟ができた。

五塔 : 関東地方でアウフギースの普及活動を展開してきたが、知名度の低い西日本での活動展開を考えるようになった。非常に悩んだが、「迷ったら困難な道を選べ」という言葉が最後の碧のように浮かび、様々な縁がつながって鳥取に移住することになった。いざ飛び込んでみると、鳥取の景観・空気・水・食べ物に至るまで私たちが困む環境が素晴らしく、困難をやりがいに変えてくれる選択は間違いではないと思う。

また、良いものを良いと言うことを惜しまないようにしている。自分が良いと思っても他人はそう感じないこともある。自分が何を伝えたいか、何を目的にしているのかをしっかりと考え、言葉と行動で伝える。そして相手からのフィードバックを大切にしている。

中尾 : 自身の好きなこと本位で生きてきた結果、今の自分があると主張したい。青年時代は当時憧れていた冒険にのめりこんでいたが、この経験から世界の課題を認識し、差別・人権などの普遍的な問題を自分事として身近な人々へどう知らせ、考えていくかを追求しているところである。

井田 : 自分のできることのサイズ感「歩幅」で進むことを大切にしている。周りの人と共創し、日々の小さな成功の積み重ねが思いがけない運や縁を引き寄せることに感謝しながら仕事をしている。

② 地域課題解決のヒント

中尾 : かつてシルクロード横断の途中でペシャワール地方を訪れた。ここは9.11ニューヨーク同時多発テロ以降アフガニスタン難民の大量発生があり、その惨状をつぶさに見た。パレスチナ難民キャンプにも行き、支援活動もした。また、内閣府青年育成交流事業のリトアニア派遣団の団長として同国を訪れた際には、国民がロシアからの様々な脅威に晒されている現実を参加青年と垣間見た。これらの深刻な状況の重大な問題は人権問題である。様々な人権問題を研究していると、日本で深刻な高齢者の課題に突き当たる。特に、地方では切迫感が厳しいと考える。

前田 : 私の法人は地域で選ばれ続けることを目標に掲げている。サービスだけでなく心を持って事に当たる。そして、お客様・利用者を増やさない努力が肝心と考え、行動していく。これは地域課題、ひいては社会課題に直結するものである。この取り組みは、米子市が進めるフレイル対策にも合致する。地域で人をつなげ、孤立を防ぐ。これは、私がリーダープログラムに参加し、派遣先のドイツで「ズバー」という、趣味や興味が同じ高齢者のコミュニティに共感を得たもので、共通の趣味を通じて助け合いのスキームがあった。真誠会も、地域と組織がつながる仕掛けを作っていく。

遠藤 : 私は、地域課題の解決策として、地元組織の第三者承継を広げていきたいと考える。高齢社会の進展で地元産業が継続できず、廃れていく。地方で事業承継が広がると、その法人に密接な産業が活性化し、起業があり、労働者・若者の流入など波及効果が大きい。私がロールモデルとなり、「未来バンク」を具体化していきたい。

井田： 地域課題の解決は大きなテーマだが、自分の経験からすると、それは小さな思いから始まると思っている。思いに情熱を込めて伝えることで共感者が増え、それが突破口となって物事が動く。鳥取県は人口の少ない県であり、問題を自分事にしやすい土地柄と分析している。

五塔： 地域課題解決の前段として、鳥取に来る人に少しでも幸せになってもらいたいと考えて活動している。多くの大人は、日常的なありがたみに気付いていない。サウナは、自然の雄大さを五感で感じ、自分自身の新しい発見を促すに役立つ体験。また、風通しの良い人に会える場所。心地よい第三者とのふれあいがあり、これは社会福祉の一方策に繋がってくるのではないか。

中尾： 人権に関する大きな課題は、突き詰めると個別の問題へどう向き合うかということ。世界トップの高齢社会である日本の地方における課題解決を世界が注目している。私たちが世界へのお手本になることを創り上げるチャンスである。

井田： 現状、若者の就職先がない鳥取県を何とか変えていきたい。星取県の展開先には、宇宙産業の仕事が地元にある地域を目標にしていく。皆さんからの気づきやヒントもぜひ聞かせてもらいたい。

遠藤： 「人は死んでも意思は死なない」という言葉がある。この言葉を心に刻み、次世代につないでいく。どぶろくを町の文化にし、地域に根付いた産業を広げたいと強く思う。地元の企業と学生とのギャップを埋めたい。人が集まることこそが活性化そのもの。自分がチャレンジすることが、誰かのきっかけになることを願っている。

石原： このパネルディスカッションでは、5人の皆さんから示唆に富んだ話をいただいた。また、私自身も学生時代から自分でNPOを立ち上げ、現在は4つの法人を運営している。今日は自分自身の学びにもなった。次の分科会では私の活動や思いなども話したいと思うし、各分科会で、より深い意見交換の機会になるものと確信している。本日は忌憚のないお話をいただき、また参加の皆さんの清聴に感謝して終了する。ありがとうございました。



第1部 分科会

分科会1：【日本最強の城『米子城跡と城下町』の魅力を活かす街散歩】→【米子の街歩き】

2022年元日に放送されたNHK「日本最強の城スペシャル第10弾～一度は行きたい最強の城～」で最強の城に選ばれた米子城跡を中心に、米子観光まちづくり公社のガイドと地域活性化の取組の説明を受けながら散策する。

→当日雨天のため、「米子の街歩き」に変更。

分科会2：「ティーサロン～お菓子で世界に想いをはせる～」

2004年度「東南アジア青年の船」事業に参加した家族に触発されフランス菓子作りをはじめ、2013年・2016年と、フランスの家庭菓子「ガレット・デ・ロワ」コンテスト「エスポワール部門」優勝の岸本典子氏（パティスリーボンヌノ オーナーシェフ）を講師に迎え、菓子や紅茶をいただきながら参加者同士の海外経験などの話題で意見交換する。

分科会3：「米子を外から覗いてみれば。。。外国人の立場からみた米子の国際交流」

フランス出身で、情報コミュニティ「YONAGOOD～外国人が発信！米子のGOOD～」のチームリーダーである佐藤亜子ジュリエット氏に地元在住者や日本人が気づきにくい米子・日本の魅力についてお話しいただきながら、地域での国際交流についてディスカッションを行う。

分科会4：「もっと石原達也氏の話を知りたい！」

パネルディスカッションのモデレーターである石原達也氏の話さをさらに深掘りして聞く。

分科会5：「もっと井田広之氏の話を知りたい！」

パネルディスカッションのパネリストである「スーパー公務員」井田広之氏の話さをさらに深掘りして聞く。

分科会6：「対談：中尾和則氏 × 前田浩寿氏」

「鳥取KIグランプリ」内閣府青年国際交流事業に参加経験のある2名のパネリストを囲んで展開する、事後活動の魅力や広がりについての意見交換トーク。交流事業に参加したKIKKAKE（キッカケ）から、その後事業が人生に与えた影響まで幅広く深掘りしていく。

分科会7：「対談：五塔熱子氏 × 遠藤みさと氏」

「私たちの7RULES」あの企画が、今日限りの復活？鳥取を拠点に活躍する魅力的な女性ふたりによるスペシャルトーク。ふたりの強さ、弱さ、美しさ…その人生観を映し出す。

分科会8：「徹底討論『改めて話そう！コロナ禍脱却後の青年国際交流事業の魅力と展開』」

オンライン参加者向けのテーマに即したファシリテーターによるフリーディスカッションを実施する。

分科会 1 :【日本最強の城『米子城跡と城下町』の魅力を活かす街散歩】→【米子の街歩き】

■ 講師紹介 : 米子観光街づくり公社 ガイド

■ 参加人数 : 20 名

■ 概要 :

2022 年元日に放送された NHK「日本最強の城スペシャル第 10 弾～一度は行きたい最強の城～」で最強の城に選ばれた米子城跡を中心に、米子観光街づくり公社のガイドと地域活性化の取組の説明を受けながら米子の街を歩く。→当日雨天のため、「米子の街歩き」に変更。

■ 内容 :

米子の中心地、湊山に築かれた米子城は戦国時代末期の天正 19 年（1591）ごろに築城され、慶長 7 年（1602）ごろに完成したといわれている。明治維新の際に払い下げられ、建物は壊されたが、石垣などは現在も往時の姿をとどめており、天守まで 15 分と気軽に上ることができる。天守跡からは大山をはじめとして、中海、日本海、米子の市街地を 360 度一望できる人気スポットである。

米子の旧市街地は、江戸時代より今日に至るまで大きな区画整理もなく、奇跡的に大火や戦火にも見舞われなかったため、いたるところに小路が点在している。

■ 所感 :

事前の天気予報によれば、当日は曇り。計画通り米子城跡の散策を行う予定だったが、当日の天気は予想以上に不安定で降雨の可能性があり、参加者の安全を第一に、城跡ではなく街歩きに変更した。

申込時に最も希望者が多く、人気があったため、途中で募集を中断し、希望通りにならなかった参加者もいた。そのため当初の予定が変更にならざるを得なかったことは、実行委員会一同、非常に残念に思う。

是非、いつかの機会に、米子の街や米子城跡を訪ねて、また鳥取へ遊びに来てもらえることを願っている。



分科会 2 : 【ティーサロン〜お菓子で世界に想いをはせる〜】

■ 講師紹介 : 岸本 典子 氏 (パティスリーボンヌノ オーナーシェフ)

2004 年度「東南アジア青年の船」事業に参加した家族に触発され、フランス菓子作りをはじめた。2013 年度、2016 年度とフランスの家庭菓子「ガレット・デ・ロワ」コンテスト「エスポワール部門」優勝。

■ 参加人数 : 14 名

■ 概要 :

岸本典子氏の講義や体験談を聞き、菓子ガレット・デ・ロワと紅茶をいただきながら、参加者の海外経験などの話題で意見交換する。

■ 内容・所感 :

岸本氏は会社員をしていたが、出産を機に、子供に手作りのお菓子を食べさせたいとの想いからお菓子作りに興味を持った。お菓子作りのレシピ本によくある「しっかり」や「ざっくり」混ぜるといった表現がわかりづらかったため、お菓子作りの①理論を知りたい、②技術の基礎をきちんと勉強したい、③国家資格を取得したいという3つの想いから、3人の子育てが落ち着いた50才を目前に、京都製菓技術専門学校に入学。

料理・お菓子作りの教室を開く傍ら「ガレット・デ・ロワ」コンテストに挑戦したが、なかなか思うような結果が得られずじけそうになった際、家族から「優勝できるまで、やればいいじゃない」という励ましの言葉をもらい、発想を変え、挑戦する勇気もらった。「コンテストに挑戦し続ける原動力は、教室の生徒の皆さんと家族の支えがあるからこそ。考え方を変えれば人生も変わるという実体験ができた」と感謝していたのが印象的だった。

岸本氏は人と人との出会いを大切に、努力を惜しまない真面目さと明るく優しい人柄がとても素敵で、参加者も口々に「またお会いしたい」と言っていた。

ガレット・デ・ロワと、それによく合う紅茶をいただきながらの意見交換で、参加者一同、心もお腹も満たされて、至福のひとときを過ごした。また、夢を叶えられたのは家族の応援、特に伴侶からの応援や理解が一番大切だったと話されたのも印象的だった。デジタルの時代だからこそ、このように心温まるふれ合い、コミュニケーションは大切なものだ改めて感じた。

岸本氏がおっしゃった「美味しいは幸せの源」を実際に体験し、元気・勇気・希望を与えていただいた優しい空間だった。ありがとうございました。



分科会3：【米子を外から覗いてみれば。。。外国人の立場からみた米子の国際交流】

■講師紹介：佐藤 亜子 ジュリエット 氏

情報コミュニティ「YONAGOOD～外国人が発信！米子の GOOD～」のチームリーダー。米子市を紹介する動画の企画、出演、編集を行うほか、米子市や近隣市町村在住の外国人で地域情報発信に興味のある人材をコミュニティ化している。フランスのパリ・東京に拠点を置き、ドキュメンタリーディレクターとして世界各地を取材した経験を持つ。その傍ら、国境なき医師団日本支部の広報担当、教育プロジェクト担当、理事を務めた。



■参加人数：21名

■概要：

①佐藤亜子ジュリエット氏の人生経験、②YONAGOOD の活動事例を聞き、地元在住者や日本人が気づきにくい米子や日本の魅力、地域での国際交流について、参加者と意見交換する。



■内容：

① 佐藤亜子ジュリエット氏の人生経験

フランス人の母、日本人の父を両親にもつ佐藤さんはパリで生まれ育ち、5年前に鳥取県に移住してこられた。それまでは、フリーランスでディレクターとしてドキュメンタリーを100本以上制作し、取材で47か国を訪問。通訳のアルバイトをきっかけにドキュメンタリーのアルバイトを経験され、大学生時代に大好きなイルカの番組企画書を書いたところ、日本のテレビ局に採用され、初めて番組作りに参加した。その後、拠点を東京に移し、番組ディレクターをした。第一子、第二子の成長を考え、パリに戻り、第三子の出産を機に米子に移住を決意された。

② YONAGOOD の活動事例

米子市の委託業務「YONAGOOD」とは、米子市に在住している外国人の方々が誰もが知っている観光名所ではなく、地元住民も魅力に感じていないような、外から来た移住者だからこそ感じる米子の魅力を動画等でわかりやすく紹介した。分科会では、米子の水について作成した映像を見た。佐藤さんは、「これまでフランス・東京に住んできたが、水道水の違いに驚いた。米子住民にとっては当たり前のことかもしれないが、その魅力に気づいていない。」と語った。

【質疑応答の一例】

日本とフランスの学校教育の違い：教育は国によって違いがある。小学校は日本の方針が好き。日本では、生徒が掃除をしたり、委員会があったりと、幼いころにみんなで何かをやり遂げる経験をすることができる。ただ、高校はフランスのほうが良いように感じる。日本はプリントやドリルをする。テストでは「記号を選びなさい」のような一部分を埋める解答方法が目立つ。フランスはどの教科でも作文をするので、自分の意見、理解したことを自分の言葉でまとめることで、自分で考える力が育つ。どちらの国にも良い点・悪い点があると思う。

■所感：

佐藤さんの生き方を聞き、自分で未来を切り開いていくパワフルなパワーを感じた。お話を聞いているだけで、元気を分けていただいたような気分になった。一人の人間、女性、3人のお子様を育てる母親としての視点から日常生活・日本・地域について幅広くお話をしていただいた。

“CIVIC PRIDE MIND” 地元を好きになって自信とプライドを持ち、他の文化との共生を目指す。地元住民が米子の魅力を再発見し、地元のことを真剣に考えてこそ、地域が変わっていくという。

一人ができることは小さいかもしれないけれど、まず当事者意識を持って地元住民が地域の魅力に気づくことが大切だと感じた。この分科会で、佐藤さんからフランス・日本で生活された中で感じた日本・米子の魅力や、海外と違う点をお話いただき、生活しているだけでは気づけない米子の魅力を改めて感じた。貴重なお話をしていただき、有意義な時間になった。ありがとうございました。



分科会 4 : 【もっと石原達也氏の話を知りたい！】

■ 講師紹介: 石原 達也 氏 (特定非営利活動法人岡山 NPO センター代表理事)

■ 参加人数 : 10 名

■ テーマ : 自分が生きていくうえで、「ないならつくろう」

自分が出会ったこと、よいと思ったこと、必要だと思ったこと (組織や事業) をつくるという石原さんの思いを知る。

■ 概要 :

パネルディスカッションのモデレーターとして、自らの生き方を造るキーワード、向き合っている地域課題など、パネリストの皆さんの思いを引き出された石原氏自身の熱い思い、ネットワークの構築や人とのつながりについて深く聞く。



■ 内容 :

住民主体の課題解決支援の中で、参加者より特に質問が多かった 2 点を紹介する。

① 子どもの貧困、当事者理解

困難を抱える子ども、家庭の支援に対する取組の中で、支援からこぼれた人を受け止めることが足りない。来てくれる人の支援はたくさんあるのに、来られない人が問題と捉え、そこを支援していく。

困窮者支援 DX は、助け合いで支えるコミュニティブリッジのシステムは全国 10 か所に提供されている。

② 災害支援 DX

災害支援ネットワークおかやま、ボランティアセンターのウェブサイトなど仕組みを作り支援した。情報が届かない人、在住外国人への支援については、復旧ロードマップの多言語版を作っている。



【質疑応答・コメント】

- 中間支援がしっかりしていることが根底にある。ワークショップをして話し合いのみで実績を残し、ステップを踏んで実績を事業につなげていく流れはかなりの労力だと思う。
- 次の世代に渡す人について
→今のまま続けるか、対応できる法人を小分けにするのか考え中。
- ビジネスモデルとしてはどうか
→指定管理、企業委託事業、NPO、バックオフィス、寄付などあり、どこかに大きく依存していない。



- これからの NPO の業務はどうなっていくのか
 - NPO が先に見つけて政策となり、行政が後につく。
地方都市は得意なものを得意な人がやるのが良い。
- 困ったときに助けてくれる人はいるのか → 二人いる
- 今後は、退職してちょっと遊んだ世代の方々に、「そろそろ地域にそのお金を出しませんか」という大人の社会貢献講座を考えている。これからの活動にも期待する。



分科会 5 : 【もっと井田広之氏の話を知りたい！】

■ 講師紹介 : 井田 広之 氏 (鳥取県商工労働部産業未来創造課 課長補佐)

■ 参加人数 : 13 名

■ 概要 :

鳥取県の星空と宇宙産業をテーマにし、地域活性化構想のもと、県公式プロジェクト『星取県』を立ち上げ・展開、また鳥取宇宙産業として『鳥取砂丘月面化プロジェクト』を進める、スーパー公務員井田氏の話をもっと深掘りする。いかにして星取県ははじまったのかを聞く。



■ 内容 :

① 星取県

環境省の全国星空継続観察により、星空日本一に輝く。鳥取県内全 19 市町村のどこからでも天の川が観測できるほどの綺麗な夜空のコンディションをもっている。そのポテンシャルは、街中でも流れ星を観ることができるほど。こういった状況のもと、およそ 8 年前から星取県プロジェクトを展開中。

また、都道府県で初めて星空保全条例を制定。(星空を妨げるライトアップの全面禁止、星空を活用したプロジェクトなどの支援、星空マップ・星空予報の作成等)

② 鳥取県と宇宙産業、『鳥取砂丘月面化プロジェクト』

星取県のネクストステージ、鳥取県の新しい産業。宇宙産業への民間事業者の参入、近い未来の宇宙旅行など、成長産業の一つである『宇宙産業』。鳥取県では、地元で宇宙産業、宇宙事業をしたい人などを集めて交流や情報交換を図る。また、宇宙ビジネスをしている業者と鳥取県でのつながりも模索。鳥取砂丘と月面の類似性と、それを活かした鳥取砂丘での月面実証実験等の推進。



はじまりは一人の小さな想いから。きっかけは「地域に活気がない」と感じたことから。その結果、優秀で意欲のある人たちは県外に出ていく。そうすると全国目線で魅力的な取り組みは生まれにくい。最終的に、地域に活気がないという『負の循環』を断ち切りたいという思い。→みんながワクワクする新産業とは？ →星空ナンバーワン！

最初からうまくいったわけではなかった。組織の中では最初は認めてもらえなかったが、自分ができることを一つずつ、そして外からの力も味方につけた。そして、最終的には組織で動く、そのために認めてもらう努力が必要。

【質疑応答】

Q.宇宙産業を根付かせるにはどんな広がり方がある？それと鳥取県の結びつきは？

A.鳥取と言えば鳥取砂丘。宇宙産業はこれから伸びていく分野だが、それをチャンスととらえている地域はたくさんある。その中でも鳥取県が存在感を出すには？そう考えた時、砂丘での月面探査実証や月面で使える技術の産業創出を考えた。



そのほか、具体的な星取県による反響について、企画の裏話、組織内での反応や、井田氏が様々なことをしていく中での人とのつながり、関わり、今後の展望、星取県の未来について活発な質疑応答が進んだ。

分科会 6 : 【対談 : 中尾和則氏 × 前田浩寿氏】

■ 講師紹介:

中尾 和則 氏 (鳥取地球人クラブ代表)

子供の頃は地図帳が大好きで、大学時代は留年を繰り返しながら世界を旅した。卒業後も、「まだ見てない世界がある。自分にサラリーマンはできない」と言って就職はせず、世界 80 か国を旅した冒険家。

前田 浩寿 氏 (医療法人・社会福祉法人「真誠会」理事長)

海外ミュージシャンに憧れ音楽にのめり込んだ学生時代。大学卒業後は世界を舞台に仕事をしたいと、大手総合商社への就職を目指すのが失敗。紆余曲折ありながら義理の父が経営する法人を継ぐ。地域 (米子市) から世界を見据え、内閣府青年国際交流事業「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」に参加。

■ 参加人数 : 参加人数 : 10 名

■ テーマ : 「鳥取 KI グランプリ」

■ 概要 : 内閣府青年国際交流事業に参加経験のある 2 名のパネリストを囲んで展開する、事後活動の魅力や広がりについての意見交換トーク。交流事業に参加した KIKKAKE (キッカケ) から、事業が人生に与えた影響まで幅広く深掘りしていく。



■ 内容・所感 :

共に世界に憧れを持って育ち、自分の想いそのまま自由に生きた人間と、妻の実家のため逃げることは許されず運命を受け入れ、地域住民や職員の為に与えられた場所で咲く覚悟を持った人間。両極端の生き方をしてきた二人による対談。共通のテーマである「高齢者」「地域づくり」を中心に、参加者も一緒になり、様々な話が展開された。心に残っていたいくつかを紹介する。

情報化が進んだ現代社会において、例えば韓国と日本の都市部の若者同士が交わってもカルチャーショックはあまり受けないだろう。地方の田舎に行き、地元の高齢者に会うほうが余程刺激が強い。東京のマンションで育った人が田舎の日本家屋や広い庭を見たり、方言でしゃべるおばあちゃんに、東京人だと珍しがられ手を触られたりする方が強烈だ。中尾氏はそのような体験が出来るよう鳥取県の中でも田舎である用瀬町に大学生に住んでもらう活動をさせてい



る。初めは大学生が田舎で人が足りず継続が難しくなっているお祭りなど文化的なイベントを手伝ったりして交流を深めていく。地域に住んでいると高齢者の生活が見えてくる。顔見知りになった人たちが何に困っているのか自分たちで考え、雪が降ったら家の雪かきを手伝いに行くようになる。年に一度のお祭りの手伝いより日々の雪かき。若者がこのような本質的なことに気づき体験することは大きな成長である。

参加者の女性は高校生の時に南アフリカに留学したが、田舎では留学が珍しく変人扱いされた。やりたい事が周りの環境によってはやりにくく理解を得難い時もあるというエピソードがあった。自由に生きること、やりたいことをやるのは簡単ではない。できなかつたり諦める人も多いただろう。その時々で感情や葛藤はあるだろうが、一步を踏み出した経験のある私たち IYEO のメンバーは、迷っている人がいたら背中を押してあげることが大切である。

分科会 7 : 【対談 : 五塔熱子氏 × 遠藤みさと氏】

■ 講師紹介 :

五塔 熱子 氏 (とっとりサウナ CEA 最高経営熱波師)

横浜市出身。日本一の熱波師。本格的フィンランドサウナ「Nature Sauna」(鳥取県琴浦町) 所属。2022 年「アウフグース世界大会」個人部門フリースタイル 3 位。2023 年「アウフグース世界大会」準優勝。アウフグースを通じ、海外青年と積極的に交流を図っている。

遠藤 みさと 氏 (株式会社 上代 代表取締役)

米子市出身。2021 年廃業寸前だった会社「どぶろく上代」を事業継承し、24 歳で社長に就任。就任後、会社の業績は急速に回復し、新商品の開発やカフェのオープンなど新しい取り組みにも挑戦。地域を巻き込んで活性化を進める若きリーダー。

■ 参加人数 : 11 名

■ テーマ : 私たちの 7RULES

■ 概要:

鳥取を拠点に活躍する魅力的な女性二人によるスペシャルトーク。二人の強さ、弱さ、美しさ…その人生観を映し出す。

■ 内容

(遠藤) 大阪の会社に就職したものの自分の思うような仕事ができず、会社の犬にはなりたくないと言われ約 5 か月で退職し、U ターン。父親の影響で始めたコンサルティングの仕事をする中で地元の良さを再確認。町の活性化の手段としてどぶろく造りを始める。後継者不足を目のあたりにし、後継者を探している会社と事業承継したい人を、知り合いを通じて紹介している。

(五塔) セラピストをしながらアウフグースを始める。各地の温浴施設に営業してフリーランスの熱波師として活動、活躍の場を広げていった。2021 年に琴浦町に移住。最初の頃はサウナに反対する住民が多かったが、丁寧に説明を重ねて味方を作り続けていった。今では琴浦にサウナ部ができ、「サ飯」マップを作成するなど地元貢献している。

この他に、遠藤氏からはマルタ島に留学した話、大阪での仕事の様子、どぶろくの魅力を聞き、五塔氏からは世界大会に出場したときの様子、地元の理解が得られるまでの苦労話、サウナでととのえる健康などについて聞いた。



【質疑応答】

実際転職は難しい。どう決心して、どんな仕事に就けばいいか？

（遠藤）例えば5年後、今の仕事をしていてワクワクできるかどうか、将来の姿を想像してみる。お金は後でついてくると思う。自分がやりたいことを極めるのが大事。

（五塔）二足の草鞋を履いていたが、仕事をしていく中で見つけた課題の解決策を探して実践していく過程で、人を幸せにする、ワクワクする方の仕事を選んだ。お金の問題もあるので、転職は即決せず来るべき時が来るまで準備を進めておくのがいいと思う。

この他にも質疑応答が活発に行われ、和やかな雰囲気では話が進められた。



分科会 8 :【徹底討論『改めて話そう！コロナ禍脱却後の青年国際交流事業の魅力と展開』】

■ 進行役紹介 :

池田 俊貴 (日本青年国際交流機構 事務局次長)

工藤 春香 (日本青年国際交流機構 事務局長)

柿本 和也 (第 39 回日本青年国際交流機構全国大会実行委員長)

■ 参加人数 : 24 名

■ 概要 : オンライン参加者向けのテーマに即したファシリテーターによるフリーディスカッション。

■ 内容

ブレイクアウトルーム 20 分 3 グループ 20 分

1. 自己紹介、ご自身が今行っている活動等
2. 青年国際交流事業に参加した自分の「before⇒after」
3. 全体で共有

ブレイクアウトルーム 2 グループ 20 分

4. コロナ禍で直面したピンチあれこれ、コロナ禍だからこそ得た学びなど(どう生かすかという視点も含め)
5. オンラインのこれからの活用(会議の運用やイベント実施)
6. 全体で共有



■ 所感 :

コロナ禍によってあらゆる活動が見直しを余儀なくされ、リソースの減少や感染リスク負担の増加など国際交流活動がますます苦境に立たされている。交流の意義について改めて認識し、私たちの手で国際交流活動を継承していくという決意を新たにするとともに、直近の活動や今後の活動へのヒントやモチベーションを得ることができた。



【参加者からのコメント】

- ・少人数の分科会で参加し易かった
- ・もっと話したくなった
- ・初めての方が多かったが、テーマに沿った意見交換ができて良かった
- ・コロナ禍後のオンラインの活用法や、直近で抱えている課題などについて皆で共有した。オンラインだからこそ参加できたという声もあり、今後もハイブリッドを継続してほしいという意見もあった

第2部 式次第

1. 開会の言葉
2. 関係団体紹介（主催、共催、運営事務局、後援、協力）
3. 来賓挨拶
米子市長 伊木 隆司
4. 事業参加報告会
2022年度「世界青年の船」事業 参加青年 梶本 夏未
5. 懇親意見交換会
6. 乾杯の挨拶
一般財団法人青少年国際交流推進センター理事長 駒形 健一
7. 協力団体紹介
8. 閉会の挨拶
日本青年国際交流機構 中国ブロック幹事 佐藤 孝志

第2部 事業参加報告会

■ **タイトル:** 2022 年度「世界青年の船」事業 参加報告

■ **報告者:** 梶本 夏末

IYEO でのさまざまな出会いと活動を経て、2022 年度「世界青年の船」事業に参加

■ **事業スケジュール:** 1 か月のオンライン交流 + 2 週間の対面交流

9 月に、日本参加青年のみが参加する事前研修が対面で行われた。その後、開講式、事前研修などがオンラインや仮想空間を利用して開催され、参加青年みんなですべて準備を進めた。各国からの参加青年が来日後、対面交流が始まった。コース・ディスカッション、課題別視察、ピア・ラーニング・セミナー、ナショナルプレゼンテーション、自主活動などを実施した。また日本全国 8 道県に分かれて地方プログラムも実施した。活動の成果を発表するサマリー・フォーラムを行い、その後解散式、日本参加青年のみの事後研修に参加した。

■ **事業参加国 (11 か国):**

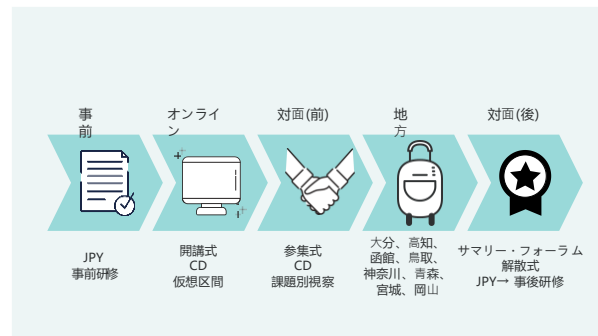
オーストラリア、バーレーン、ブラジル、カナダ、

メキシコ、オマーン、ペルー、ポーランド、南アフリカ、スウェーデン、日本

■ **活動内容や所感:**

ピア・ラーニング・セミナーでは、日本文化の紹介の一環として、外国参加青年に書道や日本の伝統的な遊び (ゲーム) の紹介をした。

世界各国から集まった参加青年たちとの対面交流を通じて一緒に時間を過ごすことで、さまざまな問題点や価値観の共有ができた。2 週間、寝食を共にすることで、同じ経験を持つ友人が世界中にできたことは何者にも代えがたい経験となった。プログラム終了後も、事後活動の一環としていろいろな国の友人を訪問し、交流を深めている。



第2部 地域理解研修オプションツアー

「ネイチャーサウナ」へ行こう!

■日時:10月1日(日) 9:00~12:30

■場所:鳥取県琴浦町「Nature Sauna」

■タイムスケジュール:

9:00 国際ファミリープラザ 2F ファミリーホール 集合
9:10-10:00 貸し切りバスで移動(往路)
10:00-11:30 ネイチャーサウナ到着、入浴体験
11:40-12:20 バスで移動(復路)
12:20-12:30 JR 米子駅、国際ファミリープラザ到着解散

■参加費:5,000円(米子-ネイチャーサウナ間の往復バス代、サウナ入浴料が含まれる)

当初、五塔熱子氏の不在中に訪問する予定だったが、五塔氏が急遽当日ご参加くださり、世界に通用する腕前を見せていただいた。



「どぶろく上代」見学ととっとり花回廊散策

■日時:10月1日(日) 8:30~12:00

■場所:鳥取県伯耆町

■タイムスケジュール:

8:30	国際ファミリープラザ集合
8:30-9:00	貸し切りバスで上代へ移動
9:00-10:00	「源流どぶろく上代」酒蔵見学
10:00-10:20	バスでとっとり花回廊へ移動
10:20-11:30	とっとり花回廊散策
11:30-12:00	バスで JR 米子駅・国際ファミリープラザへ移動・解散

■参加費:5,000円(米子-上代・花回廊間の往復バス代、とっとり花回廊入園料が含まれる)

どこか懐かしい小さな廃校跡を訪問し、「源流どぶろく上代」の酒蔵工房を見学した。その後、秋の花が満開の花回廊を散策した。



ラッピング列車で行く水木しげるロード@境港散策

■日時:10月1日(日) 9:15~散策後、自由解散

■場所:鳥取県境港市

■タイムスケジュール:

9:15 JR 米子駅ロビー集合

9:33 ~10:15 米子駅発鬼太郎列車出発

10:15 境港駅到着水木しげるロード自由散策

※ 帰りは、米子空港へ直接向かう人もいますので、自由解散

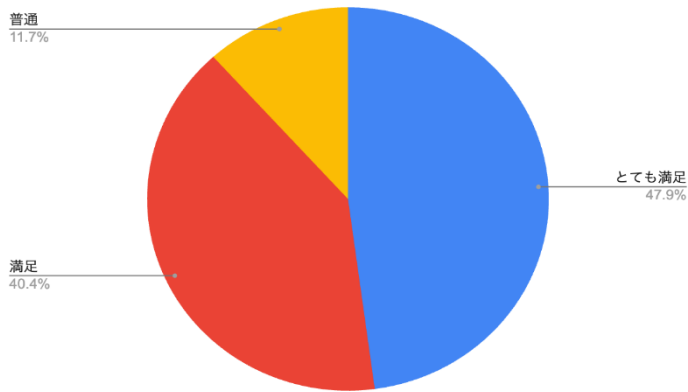
■参加費:1,000円(JR米子駅-境港の片道運賃、スモールギフトが含まれる)

JR米子駅から『ゲゲゲの鬼太郎』のラッピング電車に乗車し、境港に到着。お出迎えは、妖怪!?



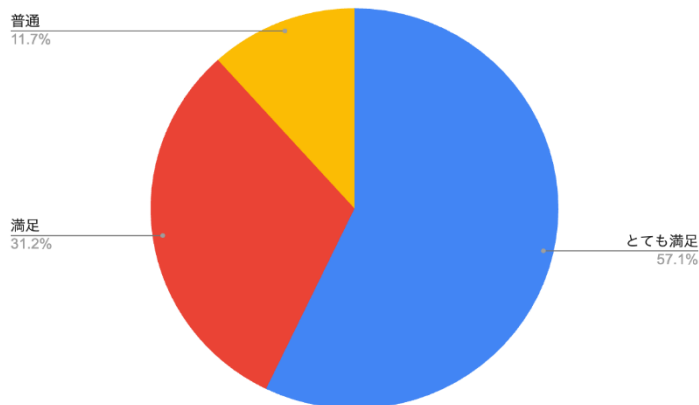
参加者アンケート結果

<第1部> パネルディスカッションの満足度を5段階で評価してください。(128名中107名回答：回答率83%)



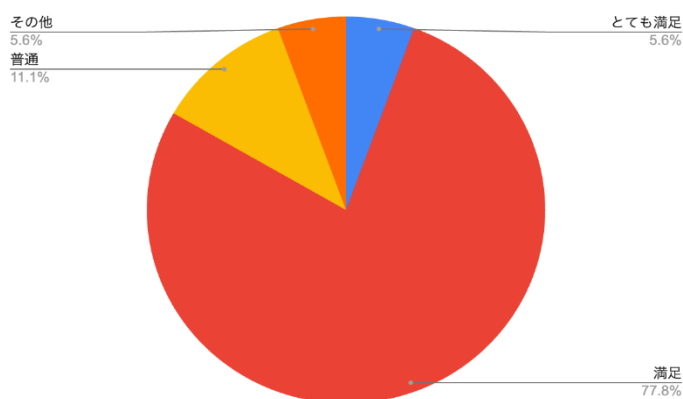
参加者からは、非常に高評価を得た。特に、選択項目として「どちらとも言えない」が0、「どちらかという不満」も0という回答で、今回の企画が多くの参加者に大変喜んでいただけたのを裏付ける結果となった。

会場で参加した人達のみ、<第1部> パネルディスカッションの満足度を5段階で評価してください。(77名)



会場で参加した人のみの評価も、非常に高評価であった。「とても満足」と「満足」を合計すると88.3%と、多くの参加者に満足していただける結果となった。企画力、人選、内容やテーマ設定などを評価するコメントが多数見受けられた。

オンライン参加した人達のみ、＜第1部＞パネルディスカッションの満足度を5段階で評価してください。（18名）



オンラインで参加した人からの評価として、「とても満足」と「満足」を合計すると83.4%の人に満足していただいた結果となった。ただし、会場での参加者の評価と比べて、「とても満足」の割合が大きく減少しており、ハイブリッド開催の難しさが出ていると考えられる。会場開催の様子をただ配信するだけでなく、参加者との双方向のやり取りがもう少し必要だったと思われる。オンライン参加者からのアンケートでは、今後も会場に行けない人への配慮として、オンラインを併用したハイブリッド開催を希望するコメントが多数あった。

……………以下、アンケートからの抜粋……………

＜第1部＞パネルディスカッションの感想などありましたら教えてください。

- ・様々な分野で活躍されている皆さんの、今までのいろんなお話が伺えてありがたかった。高齢化の地域に住んでいる者として、参考になることもありました。
- ・豪華パネリストと、キーワードをもとにそれぞれの個性やバックボーンについて触れていくシナリオがとても面白かったです。
- ・石原さんや5人のパネラーのテンポのいい掛け合いが素晴らしく、あっという間に終わってしまった感じでした(笑)
- ・参加できなかった分科会の講師の先生のお話を聴くことができたので、とてもよかったです。石原さんがいい流れを作られて、講師の先生方に熱く語っていただけたと思います。石原さんがイメージされた色で先生方のメッセージも素敵だなと思いました。懇親会の場でも、パネルディスカッションのメッセージが話題にでていたので、皆さん気付きや刺激があったのだと思います。
- ・パネリストの業種の偏りがなく、他分野で活躍されている方々を選定されていたので、それぞれの目線が新しく、また多種多様な回答があり、いろいろと考えさせられました。また、それを取りまとめ進行されていた石原さんのファシリタも、大変参考になりました。良く練られたディスカッションだと思いました。PPTでそれぞれのキーワードを視覚的に見せて頂いたのも良かったです。
- ・多彩な経歴を持つ講師をよくこれだけ集めたなと思うような、実に豪華な顔ぶれでした。本当は一人一人のお話をもっと個別に詳しく聞きたいところでした。そもそも基調講演ではなくパネルディスカッションにしたアイデアがこれまでの全国大会からすると斬新で、さらにパネリストがその後の分科会を担当する流れが秀逸。ファシリテーターの石原さんによるコーディネートも大変素晴らしく、全体を上手にまとめられていたと思う。またパネリストのキーワードを文字化してスライドに見せるのも非常に分かりやすかった。「置かれたところで咲きなさい」という前田さんのメッセージに非常に心打たれた。これまでの全国大会にはない、バージョンアップされてハイレベルな第一部だったと思う。
- ・五塔さんが言われた言葉「迷ったら大変な方を選びなさい」、前田さんが言われた言葉「置かれたところで咲く」が心に残りました。
- ・皆さんの生き方を聞くことができ、とても満足しています。皆さんのお話を聞いて、どこで人の輪が繋がっていくかわからな

い。その時の最善を尽くして、自分が実現したいことは口に出してということの大切さを改めて感じました。

・鳥取で活躍されている方々の話が聞けて、鳥取県がどんな県なのか垣間見ることができました。田舎のイメージですが、いろいろなことにチャレンジされてる方がいるのだと思いました。

・地方にも地域の特性を理解した「熱いモノ」が数多く存在し、活性化の中心として活躍していること。年齢・性別・キャリアに関係なく。むしろ、住み着いた地域と関係のない方ほど、地域をよく理解し地元民としっかりと関係を構築していることに、改めてヒント・パワーをもらいました。まさしくこれからは「外様民」の時代です。

・長丁場でしたが、皆さんの熱い思いが伝わってきました！もっと皆さんの話をそれぞれ聞きたくなりました。

・「置かれた場所で咲く覚悟」、「運命を受け入れる」など、心に響くキーワードをたくさんいただきました。私自身、地方在住で、都会に憧れたこともありましたが、自分の住む地域の良さや、またそこで自分に与えられた使命を全うすることの大切さなど、考えさせられました。海外に出る夢はあったけれど、義父の仕事を継承して、地域に貢献する姿や、地元愛から全く親族でもないのに酒蔵を継がれるなど、様々な立場から鳥取の地に根差し、地域に貢献する姿に勇気とエネルギーをもらいました。

・いろんな世代、ジャンルのパネリストで楽しめました。進行が簡単ではなかった気がしますが、臨場感もありそれぞれのキャラクターが伝わり面白かったです。それぞれの意見について、お互いコメントを言い合うところも見かったです。

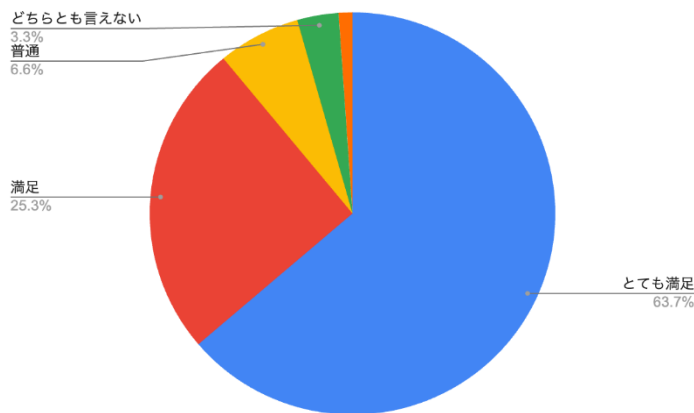
・自らの夢や目標を切り開いて目指していく方、置かれた場所で地道に積み重ねていく方、経営者から公務員まで様々な方がいて話が面白かったです。多様な方がいたので、会場にいたどの人にとっても刺さる言葉が聞けたのではないのでしょうか。一方で、開会もあわせて2時間半とおして聞くだけだったのが少しつらかったので、休憩や質疑応答などがあればよりよかったですと思います。

・登壇者が多いのは色々な人の話が聞けて面白いが、反面、一人の意見を掘り下げて聞けないので、分科会でそのフォローができていたのはよかった。ただ、パネルディスカッションしか参加できないと、少し物足りない気もした。しかし、時間的にはこれ以上長いと集中力が途切れるので、なかなかバランスがむずかしいと思った。

・鳥取を代表するプレイヤーの取り組みから刺激と学びを受ける事ができた。個々の取り組みは素晴らしかったが、何かしら最終的なまとめがあるとなお良かったのではないかと感じた。

・もっと詳しくおひとりの話をききたい！と思う様な内容でした！可能であればキーワードを集めたスライドは手元に欲しかったなと思いました。

<第1部> 分科会の満足度を5段階で評価してください。(128名中107名回答：回答率83%)



分科会の全体評価としては、非常に高評価となった。「とても満足」と「満足」を合計して89%の参加者に満足していただけた。

.....以下、アンケートからの抜粋.....

<第1部> 分科会の感想などありましたら教えてください。

【分科会1：日本最強の城『米子城跡と城下町』の魅力を活かす街散歩】→【米子の街歩き】

- ・雨でしたが色々な地元に根付いた文化を紹介していただき、ありがとうございました。
- ・悪天候のため米子城跡には行けませんでした。雨の旧市街の町家や街並みを見ることができました。
- ・米子の街の歴史や文化を掘り下げられてとても興味深い街歩きでした。ガイドの方に感謝です。なお雨で行けなかった米子城には翌日一人で登りました。とても感動しました。
- ・雨で説明が聞こえづらく残念だった。
- ・米子のことも知りたかったので、町歩きができてよかった。もう少し、買い物ができる先があると、お土産を買ったりとお金をもっと落とせたかなあと思いました。

【分科会2：ティーサロン～お菓子で世界に想いをはせる～】

- ・美味しい作品を頂きながら、和やかな雰囲気の中でお話しに聞き入ることができました。規模感としても、講師の方のお人柄が伝わってくる、適度な距離感でした。
- ・岸本典子先生のお話を、フランス菓子ガレット・デ・ロワと紅茶をいただきながら聴かせていただくという、最高なひとときでした。50代からのチャレンジができたのは、お料理教室・お菓子教室の生徒さん・指導された先生・ご家族、たくさんの方の支えと応援のおかげだと感謝されていたのが印象的でした。
- ・夢はいつになっても実現できる、いつ始めても遅くないんだと思い、勇気が湧きました！ケーキとても美味しかったです♪
- ・典子先生が「ガレット・デ・ロワ」のコンテストで優勝されるまでのお話を中心に、詳しく聞かせていただくことができとても嬉しかったし、勉強になりました。お話を聞かせていただく中で心に残ったことは、「考え方を変えれば人生も変わる」という言葉です。何歳の人であっても、考え方を考えることに遅すぎるとは無いのだなと感じました。そして、行動を

始めるのに、はやいに越したことはないのだなと思いました。行動力の大切さは、何歳になっても重要なのだなと感じました！また、すぐ近くにいる家族や周りの人でも考え方を考えようと思いきっかけになりうることを知り、改めて、周りの人に良い影響を与えることのできる人になりたいと思いました！ガレット・デ・ロワは、今までにもボンヌノさんのお店で購入し、食べたことがありましたが、貴重なお話を聴かせていただいた後に食べたガレット・デ・ロワは格別でした！！

・ティーサロンでは、岸本さんのこれまでのストーリーが聞けて、よりボンヌノの魅力を知ることができて良かった。こういった生産者や作り手の想いを聞けるのはとてもいい。ケーキと紅茶も美味しかったです。焼き菓子などの販売があるとよかったです。プチ購入したかった。

【分科会 3：米子を外から覗いてみれば。。。外国人の立場からみた米子の国際交流】

・講師が非常にパワフルかつ魅力的でした。現在の活動はもちろん、幼少期からこれまでの人生の中での考えや判断なども明快で、今後のIYEOの参考になることも多くあった。

・講師の熱意が凄くて、多文化共生に関わる仕事をしているため、継続的に助言してもらえる米子市さんが本当に羨ましく思いました。お会いできてよかったです。

・日本の公立学校の良いところ、悪いところを知ることができました。

・フランスも日本も（その他の国も）知っている立場から、遠慮なくたくさん意見をもらえてよかったです。特に、フランスの小学校を見て、あまりにも小さい時から個人主義である必要はないという意見は新鮮で納得できるものであったと感じました。

・外国人から見たYonagoの魅力のお話にひきこまれました。外国人の視点で、米子の魅力をあれだけ全力で語っているのを見ると、地域の人々の地域に対する愛情も高まると思いました。国際的な背景をもち、地域の魅力を語る講師というのは、IYEOのイベントにぴったりと思いました。

・とても元気にパワフルに話しを進めていかれました。外国人から見ての米子を気持ち良く紹介してくださいましたが、気になるのは具体的に私達市民が実行できること、やらなければいけないこと、逆にやってはいけないこと具体例の話を進めて欲しかったです。確かにきれいなところはたくさんあります。見落としているのではなくて見慣れた風景。私達が外国に行けばもちろん目を輝かせて楽しめます。そんなわけで、こうしたら米子はもっと良くなるよ！こんな工夫してみませんか、などの具体例を期待しています。元気でパワフルでパッションに溢れているのはものすごいエネルギーです。亜子さんがそのパワフルさで進めばパワフルな方たちがついて行きます。しかし市民のみなさんが、亜子さんほどパワフル、パッションのかたまりではありませんから、市民に寄り添って、楽しく明るい米子市をつくっていくリーダーとして頑張ってください。

【分科会 4：もっと石原達也氏の話を知りたい！】

・モデレーターをされていた石原さんのお話やご経験がとてもユニークで、パネルディスカッションとは違ったお話が聞けて良かった。

・石原さんがこれまでされてきた活動と変革をぎゅっと凝縮してお話だけだったので、石原さんについてやっどどのような方かを知ることができました。また、一緒に参加されている皆さんも、様々な経験をお持ちで、多様な視点を持って、石原さんに質問をされていたので、自分にはない気づきを得ることができました。

・石原さんのお話を通して、NPO の可能性を非常に感じました。今後に生きる非常に充実した内容でしたので、本当に楽しく、刺激的な分科会でした。

・石原さんのアイデア、行政を巻き込む、動かす力、どれをとってもすごいものであった。時間があつという間で足りないくらいであった。

・他の県の地方創生事業のお話が聞けて鳥取について知ることができてよかったです。

・なかなか真似のできないくらい幅広い活動をされている方の話を直に聞く機会となり、大変参考になりました。中間支援センターの事業のみでなく、そこから展開され、多角的な活動をされ全体のまちづくりを担っている様子で、とても刺激的でした。まちづくりのキーマンだということが分かり、県内外で幅広い活躍をされていて、活動がどこまで広がるのかなと楽しみになりました。他の分科会参加者にも聞きましたが、どの分科会も満足度が高いようで、分科会のクオリティの高さを感じました。とても勉強になりました。

【分科会 5：もっと井田広之氏の話を知りたい！】

・私も公務員なので、アイデアを没にされた気持ちはよくわかります。でも、それにもめげず前進してチャンスをつかんだことは素晴らしい！と思いました。

【分科会 6：対談：中尾和則氏 x 前田浩寿氏】

・お二人の異なる個性や経験値が興味深く、グローバルリーダーの重要性と、その正解像はないことを強く感じました。

・話が聞きたかった高齢化の課題について、海外・国内・地域と様々な視点での話が聞けて良かった。

・過疎化について話題が示唆に富んでいた。

・地域福祉、高齢化、人権問題はこれからの地域が向き合っていかなければならない課題ですが、そこにグローバルな視点も持って取り組みを進めておられることに感銘を受けましたし、内閣府の青年国際交流事業が大きく寄与していることを実感しました。かつての「コアリーダー育成プログラム」の要素を今後の内閣府青年国際交流事業にも上手く組み込めればとの思いを強くしました。

・テーマのみにとらわれず、ざっくばらんなお話を全国から集まった参加者とすることができとても濃い時間でした。地域ごとに異なる課題についてもバラバラの出身地であるが故に多様な見方について知ることができました。

【分科会 7：対談：五塔熱子氏 x 遠藤みさと氏】

・パネルディスカッションでは聞ききれなかったことを伺えたことが大満足でした。

・若くてエネルギー溢れる二人の女性の熱い思いが伝わってきた。

・お二人のすてきなお人柄もあり、また参加者の皆さまもすてきなかたばかりで、質問を随時受け付けてくださりながら、和やかな雰囲気で開催できた。異業種に思えても共通するまちづくりや仲間づくりに関する想いもうかがえ、自らにも置き換えて考える機会となった。様々なご経験をざっくばらんにお話して下さったお二人に感謝したい。

・みなさんとフランクに意見交換できて楽しかったです。

【分科会 8：徹底討論『改めて話そう！コロナ禍脱却後の青年国際交流事業の魅力と展開』】

・少人数の分科会で話しやすかったです。

・オンラインだからこそ参加でき。普段繋がれない方々とお話できて、とても有意義でした。

・オンラインでも様々な方と交流でき、オンラインでできることの可能性を感じました。司会の方が、とてもお上手だと思いました。

・初めましての方がたくさんでしたが、テーマに沿って意見交換できたことが良かったです！また、オンラインですが、工夫して少しでも鳥取の魅力を伝えていただき、ありがとうございました！

・コロナ後のオンラインの活用法や、直近の活動で抱えている課題等についてみんなで共有しました。オンライン参加者からは、オンラインだからこそこうして繋がる機会を得ることができた、今後の全国大会でもオンライン対応を続けてほしいとの要望がありました。

・本大会には参加できませんでしたが、開会式で、知っているメンバーが写っているのを見て一緒に参加できている気分になりました。ハイブリッド対応大変と思いますが、この方法であれば、毎年全国大会にできそうです。

その他、全体を通じての感想や良かったところはどこですか？

……………以下、アンケートからの抜粋……………

- ・久しぶりの対面での全国大会、ハイブリッドの開催で大変だったと思いますが、改めて IYEO っていい団体だなあって思いました。ありがとうございます。
- ・ハイブリッド対応（分科会も池田さん中心に Zoom 参加者に対して設けられていたのはよかった）、充実した内容の懇親会、すべてが同じ建物内であったことで参加しやすかったこと、全体的に盛りだくさんの内容だったが運営が非常にスムーズだったこと、たくさんの知っている人たち（鳥取のメンバー、中国地方のメンバー、ほか IYEO の人たち）に会えて、ゆっくり話す時間もあったこと、みんな楽しそうにしていたことが大満足でした。
- ・おもてなしが素晴らしく、その苦勞を見せないところが凄かったです。
- ・とても前向きな方が多く、準備段階から親身になっていただき本当に良かったです。
- ・みなさんがとてもやさしく巨つ激アツでした。知事のダジャレを生で拝聴できたのも大変貴重な経験で嬉しかったです。テーブルいっぱいの贅沢なカモも、みなさん無言で一生懸命格闘されながら食されているのも、鳥取ならではの光景で楽しかったです！
- ・実行委員のホスピタリティ、学びと交流のバランス、第二部の少人数での移動中の交流と実行委員の温かいサポートが印象的でした。
- ・登壇者が鳥取、山陰地方への愛が深かった。山陰をこの先どうしたいか、各々のキャリアと結びつけて話されていた。
- ・平井知事のスピーチ最高でした。ネームカードに情報が集約されていたので受付がスムーズにできた。閉会式を土曜日の夜やってしまったのは良かった。※全国大会も良い方向に変化して若い参加者を増やしていきましょう。
- ・サプライズムービーが良かったです。会場全体の気持ちが高まり、会の流れができていたと思います。
- ・素晴らしい機会をいただき、ご対応に感謝いたします。22 年ぶりに同期に再会できて懐かしかったですし、その他新しい出会いもあり楽しい時間になりました。県知事のご挨拶を生で聞けて光栄でした。鳥取の人の人柄の良さ、パワー、地域力、ユーモアが感じられる大会でした。お世話になったスタッフの皆様ありがとうございました。
- ・すべて良かったです。受付名札：ひとつひとつ作成するのは労力かかると思いました。ご準備ありがとうございました。企業協賛品：協賛品をとるという発想がなかったので勉強になりました。とち餅、美味しかったです。お土産にも買いました。水も美味しかったです。分科会の講師の方が水のおいしさについても語っていたので良かったです。講師：これだけ多様な講師を集めるのはすごいです。集め方が気になります。カニ料理：長野では冷凍していないカニがあまり売っていないので、生まれて初めて食べました。冬の食べ物と思っていたので思いがけずごくうれしかったです！そのほか、梨やおこわなど名物をそろえてくださって、最高でした。
- ・受付がスムーズ。写真撮影がスムーズ。県知事挨拶素晴らしい。名札も賢い。きっと運営大変なのに大変そうな雰囲気を出していない実行委員メンバーが素晴らしい。二次会出欠とらなかったのに、人数予測で開催してくれた点が素晴らしい。運営の皆様ありがとうございました。また全国大会に行きたくなりました。
- ・時間通りに進行がスムーズだったのが素晴らしかったです。
- ・境港の散策は瀬良さんが詳しくお話ししてくださったり、のんびり散策できたりしたのと、昼食に魚介類を網焼きできるお店に連れて行っていただき、すごく楽しかったです。散策途中に、あるお店でぬれ煎餅で挟んだアイスを食べたのですが、予想以上の調和が取れていない味で、むしろ面白かったです。IYEO の皆さんとはいつも楽しく過ごせるのでとてもありがたいです。

・オンラインでも開催していただけて参加できてよかったです。懇親会は、リモート飲み会の形でもできたかもしれないと思いました。事前に鳥取の美味しいものとお酒をセットで購入できるようにして、自宅まで郵送で届けていただいて、オンライン組はリモート飲み会を楽しむというのもできたかなと思いました。

・運営はスムーズ、懇親会の料理もとても豪華で非常に良かった。ただ、事業参加報告が懇親会の直前に立席のまま行われ、そこそ疲れるとともに発表者にとっても発表しにくい雰囲気になってしまったのではないかと。きちんと着席で聞く時間を取ってあげたかった。

とっとり青友会の企画するイベントや講座をお友達にお勧めするとしたら、何と言って伝えますか？

- ・鳥取には面白い人達がたくさんいるよ！足を運んでみるべき！
- ・ワクワクを創り出すことができる場所だから、チャンスかもしれないよ！
- ・蟹取県、星取県を打ち出すようなユーモアセンスのある県民の企画なので、面白いはずですよ！
- ・星取県と言うだけあって、地域も人材もキラキラと魅力的でおすすめです！
- ・おもてなしの心に溢れた素敵な空間を作ってくれるから、鳥取まで行くとしてもぜんぜん遠出に感じないよ。ぜひ行ってみて！
- ・国や地域、年代の枠を超えて交流できる場所だよ。
- ・魅力的で温かい人達が企画してるイベントだから得ること多いと思うよ～。
- ・パネルディスカッションでドブコクやサウナのことを知ったので、鳥取に行く機会があれば訪ねてみたいです！
- ・水木しげるロードは、面白く魅力的で大人も子どもも楽しめます。浜焼きも堪能できます(^^) 是非友達やご家族で訪問してみてください。ウェルカニー!!
- ・イベントのクオリティが高い！鳥取県の人達は皆さん（バスの運転手さんとか、ホテルの人とかも！）とても親切でした！イベントに参加しつつ、鳥取県を丸ごと楽しんでみてくださいーい！
- ・インターナショナルに目を向けましょう♪世界が広がっていくよ。
- ・国際交流、コミュニケーションおよび青年育成に関する知識などの共感、理解、勉強する機会。
- ・とっとり青友会の皆様は明るくエネルギッシュで、おもてなし精神のある人々なので、良い経験ができるのは間違いないので、参加すべき！

第1部・第2部 会場一覧表

日時	内容	詳細	開催時間	会場名
9月30日(土)	全国大会	開会式・パネルディスカッション 分科会出発会場・閉会式	13:00~18:00	国際ファミリープラザ 2F ファミリーホール
	分科会(1)	「日本最強の城『米子城跡と城下町』の魅力を活かす街散歩」	15:45~17:30	国際ファミリープラザ 2F ファミリーホール から出発
	分科会(2)	「ティーサロン〜お菓子で世界に想いをはせる〜」	15:45~17:30	米子商工会議所 第一会議室
	分科会(3)	「米子を外から覗いてみれば。。。外国人の立場からみた米子の国際交流」	15:45~17:30	ANAクラウンプラザホテル米子 3F 千鳥の間
	分科会(4)	「もっと石原 達也 氏の話を知りたい!」	15:45~17:30	国際ファミリープラザ 9F シュシュ(1)
	分科会(5)	「もっと井田 広之 氏の話を知りたい!」	15:45~17:30	国際ファミリープラザ 9F シュシュ(2)
	分科会(6)	「対談:中尾 和則 氏 x 前田 浩寿 氏」	15:45~17:30	国際ファミリープラザ 9F シュシュ(3)
	分科会(7)	「対談:五塔 熱子 氏 x 遠藤 みさと 氏」	15:45~17:30	米子商工会議所 第三会議室
	分科会(8)	「徹底討論『改めて話そう!コロナ禍脱却後の青年国際交流事業の魅力と展開』」	15:45~17:30	国際ファミリープラザ 2F 事務局内
	意見交換懇親会			19:00~21:00
10月1日(日)	全国大会地域理解研修オプションツアー 集合・解散場所	*ラッピング列車で行く水木しげるロード@ 境港散策については現地自由解散	8:30~12:30	国際ファミリープラザ 2F ファミリーホール

会場及び会場周辺図

1.会場周辺図

第一会議室
第三会議室

米子商工会議所 分科会(15:45-17:30)
分科会2：「ティーサロン～お菓子で世界に想いをはせる～」
分科会7：「対談：五塔 熱子 氏 x 遠藤 みさと 氏」



ANAクラウンプラザホテル米子
分科会(15:45-17:30)
3F 千鳥の間
分科会3：「米子を外から覗いて
みれば。。。外国人の立場からみ
た米子の国際交流」

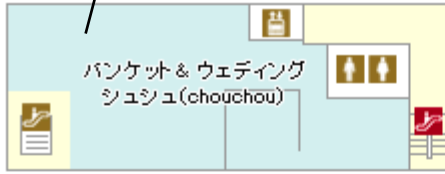
青少年国際交流事業事後活動推進大会・日本青年国際交流機構第39回全国大会
第30回青少年国際交流全国フォーラム 会場
国際ファミリープラザ 〒683-0823 鳥取県米子市加茂町2丁目180番地

2. 国際ファミリープラザ

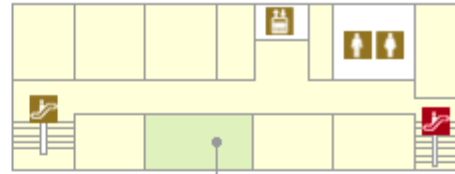
・フロアガイド

15:45-17:30 分科会 4, 5, 6

9F

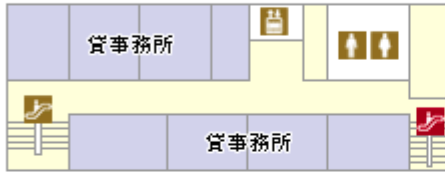


8F

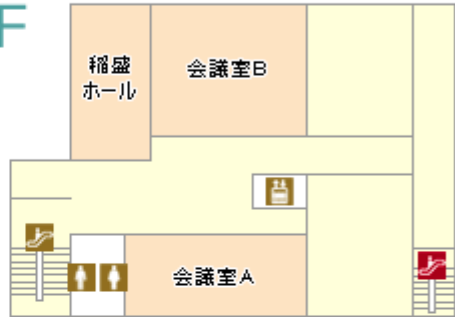


スウェディッシュ ボディケア
アクセルゾン(サロン)

7F~4F



3F



2F



1F



全国大会会場
9/30 (土)
13:00-18:00
開会式
パネルディスカッション、閉会式

19:00-21:00
懇親会

10/1 (日)
地域理解研修オープン
ショナルツアー集合

